

東日本大震災発生から節目の10年を迎えます

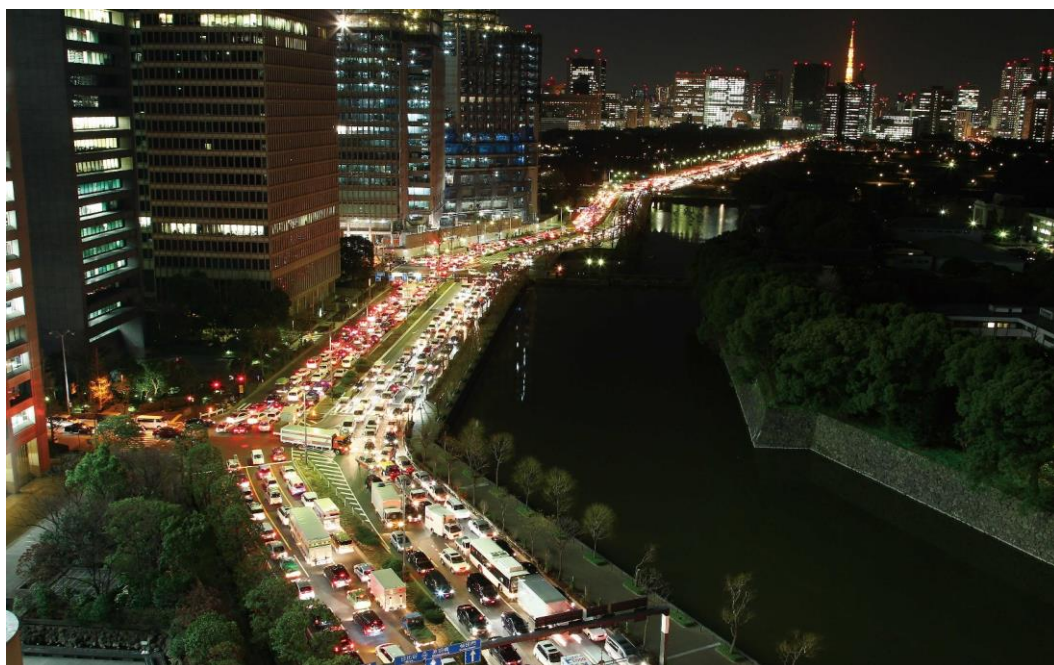
《東日本大震災から10年》

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、震源地から遠く離れた地域の高層ビル等で長周期地震動の被害が多くありました。また、平成28年4月に発生した熊本地震では、最大震度7の地震が発生し、気象庁による観測史上初めて長周期地震動階級4を観測しました。

長周期地震動とは、揺れが1往復するのにかかる時間が長い、ゆっくりとした揺れのことです。短い周期の地震動に比べ、海の波のように遠くまで伝わる特性があり、地震動が終息した後も、高い建物の高層階（おおむね10階以上）では数分にわたって揺れが継続することがあり、室内では家具類の転倒・落下・移動により大きな被害が発生することがあります。

東日本大震災後、東京都内で実施したアンケート調査によると、高層マンションでは家具の転倒などによる室内被害が高層階ほど多く発生しており、長周期地震動の影響によるものと考えられます。

また、調査した建物のうち、免震構造の建物でも家具類の移動等がみられたことから、「免震構造だから大丈夫」と思わずに、必ず家具転対策を行いましょう。東日本大震災から10年が経過しますが、過去の地震から得た教訓を忘れることなく、家具転対策をはじめ、今一度ご自宅の震災対策を見直してみてください。



平成23年3月11日 東京消防庁本部庁舎付近

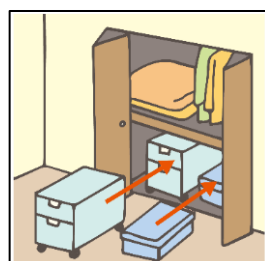
家具転対策をしよう

春は就活・転勤・入学など新しい生活が始まる季節です。家具などを動かす引っ越しや模様替えテレワーク環境の整備のタイミングに家具類の転倒・落下・移動防止対策の見直しをしましょう。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、家で過ごす時間も多いかと思います。東日本大震災から10年という節目の年を迎えるにあたり、皆様には今一度高い防災意識を持っていただきたいと思います。

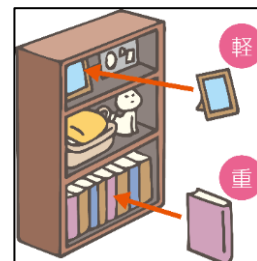
1 集中収納、収納方法の工夫

納戸やクローゼット、備え付けの収納家具などに荷物を集中的に収納して、リビングや寝室などの普段過ごすことが多い場所に家具を置かないようにしましょう。

また、棚などに物を収納する時は、重たいものを下に収納し、重心を低くして揺れにくくしましょう。



集中収納

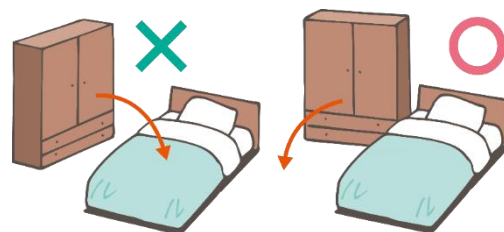


収納方法の工夫

2 レイアウトの工夫

家具を置く場合は、倒れたときのことを考えて、レイアウトを工夫しましょう。

普段寝ているベッドの方に家具が倒れてこないように置いたり、家具が移動などして部屋の出入口など避難通路を塞いだりしないよう、ベッドや出入口の近くを避けて家具を配置しましょう。



●●●●●●●●消防防災マガジン配信終了のお知らせ●●●●●●●●

この度、令和3年3月31日（水）をもちまして、消防防災マガジンのメールによる配信を終了することとなりました。

消防防災マガジンは、地域、事業所等との防災対策に係る連携強化を目的として、平成18年度から運用してきたところですが、新たな情報発信手段の多様化の進展に伴い、事業を終了することになりました。日頃から、ご愛読いただきありがとうございました。

なお、個人情報及び機密情報に係る部分につきましては、当庁職員の立会いのもと消去いたします。今後は、日本堤消防署のホームページで掲示しますのでご活用ください。

【日本堤消防署のホームページ URL→<http://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-nihondutumi/index.html>】

日本堤消防署管内の災害状況[令和3年中]

(令和3年3月1日現在)

火災件数	2件
焼損床面積	5㎡
救助件数	35件
救急件数	864件

お問合せはこちらまで

日本堤消防署 03-3875-0119
日本堤消防署今戸出張所 03-3873-0119
日本堤消防署二天門出張所 03-3845-0119
E-mail nihondutumi2@tfd.metro.tokyo.jp

メールマガジンについてのお問合せは日本堤消防署警防課防災安全係にて受け付けております。